

# ほろこ



大本山總持寺紫雲台猊下御親香にて  
前住職朴洲剛毅大和尚建牌供養



總持寺の大祖堂に安置されている朴洲剛毅大和尚のお位牌

大本山總持寺の  
大祖堂に  
渡邊剛毅前住職の  
お位牌を  
安置いたしました。

先般、十月十日・十一日の両日、  
寺務職員の研修を兼ねて、大本山  
總持寺に拝登、参籠させていた  
きました。

第一の目的は、渡邊剛毅前住職  
のお位牌をご本山に安置してい  
ただくことでした。一般的には、永  
代供養といったほうがご理解いた

だけると思います。

十一日早朝、朝のお勤めの前に、  
前住職が建設に力を注がれた大祖  
堂(本堂)において、大道晃仙貫首大  
禅師猊下に供養法要をお勤めいた  
だきました。禅師様は、御みずか  
ら歩いて上殿され、その光景に感  
動いたしました。

法要のあと、禅師様と懇談させ  
ていただく時間をいただき、禅師  
様に「渡邊老師には本山のために大  
変ご尽力いただいた」と、有り難い  
お言葉を頂戴しました。

この法要を無事円成させていた  
だき、ようやく気持ちの整理がつ

No. 16  
2005 Winter

がん しょう ざん  
含松山  
臨南寺



供養法要のあと、大道晃仙貫首大禅師猊下を中心に大澤住職以下臨南寺職員

きました。事務職員においても、  
本山での修行僧の姿を目の当たり  
にして感銘を受けていたことと思  
います。

臨南寺 住職 大澤 正道

## 馬頭観音の石碑

臨南寺の本堂の西側に「馬頭観音」  
の石碑があります。昭和二十二年に初  
めて選挙で大阪市長になった近藤博夫  
市長の筆になるものです。

観音様は、世の中の音、つまり人々  
の苦悩の声をよく聞かれ、さまざま  
ものに身を変えて、自由自在に救って  
くださる仏様です。馬頭観音もその一  
つで、高い障害を乗り越えて願いを果  
たし、悪と戦って衆生を救済するとい  
うことで信仰を集めています。

かつて長居公園には競馬場がありま  
した。昭和二十三年から三十四年まで  
十一年間開催され、一日平均三千人以  
上の人で賑わいました。この石碑はそ  
の縁で建てられ、多くの必勝祈願に  
えてきました。念  
じてその名を呼ぶ  
と必ず救われると  
いう観音様、あな  
たも勝ち運をいた  
だけるかも。



# 弁天さま祈禱会



新年を寿ぎ、二月十五日(日)に開催

臨南寺では、新年を祝って、一月十五日(日)弁天さまをお祀りし、『大般若波羅蜜多經』六百卷の五七八「般若理趣分」を転読いたします。

わが国が安らかで穏やかであ



りますよう、また世界に平和が訪れますよう、そしてすべてがめでたく幸せでありますよう——檀信徒の皆様や参詣者の方々の無病息災、家門隆盛、家内安全を祈願する法要を行います。

弁天さまは、七福神の一つで、もともとはインドの「水」の神様といわれています。言語、知識、音楽をつかさどり、福德・財宝を授ける神様。古くから学問、文芸、芸能の守護神として信仰されてきました。臨南寺の弁天さまは、お顔は一つながら、八つの腕に弓・刀・斧などを持つ「一面八臂像」です。

旧い年に感謝をささげ、新しい年の幸せを祈るために、ご家族、お友達、お誘い合わせの上ご参加ください。

## なぜ、弁天さまが臨南寺にまつられているのでしょうか？

「弁才天は神社でまつるものではないの？」という質問を時々受けます。これは明治時代の神仏分離により生まれた誤解です。

弁才天は、インド生まれで元の名をサラスバティといいました。サラスバティは「水に富むもの」という意味で、聖なる河（一説にはインダス河とも）の精として、仏教以前から水の女神としてあがめられてきました。その後、仏教の守護神として仏教とともに日本に渡ってきたのです。

今光明最勝王経というお経の「大弁才天女品」には、「若し人最上を得んと欲すれば、当に一心に此の法を持して智応すべし。福智諸功德を増長すること必定なり。財を求むる者は多財を得、名称を求むる者は名称を得、出離を求むる者は解脱を得ること必定成就なり。疑いを生ずる事勿れ」、つまり「弁天さまを一心に祈願して勤めれば、智慧でも

財産でも名声でも願いはすべて必ず成就するであろう」とあります。

弁天さまが、「妙音天」「美音天」と呼ばれて音楽の神、芸能の神として信仰されるようになるのも、川の流れ、せせらぎからの連想です。音楽は流暢な弁舌に通じることから弁舌の神となり、弁舌は智慧の証しということから学問の神となり、さらには幸福や財宝、子宝の神として信仰されるようになりました。

弁天さまの使いは蛇です。日本では古来、蛇が神聖な生き物として尊重されてきました。かつて臨南寺が深い森に囲まれていた頃白蛇が住んでいました。万代池の白蛇と兄弟か夫婦のよう、森を散策する霊姿が見かけられたといえます。臨南寺に弁天さまがまつられているのも、そうした霊験を踏まえてのことなのです。

# お釈迦様ものがたり — お釈迦様を襲う提婆達多の奸計



前回お話ししましたように、お釈迦様は、忠実な弟子アーナンダのとりなしで女性の出家を認めました。その結果、女性信者も増え、仏教教団は大勢力となり、インド各地に広がっていきま

した。組織が大きくなればなるほど、分裂を策したり、乗っ取りをたくらむ者が現れます。それが提婆達多でした。

提婆達多はもともとお釈迦様と同じ一族の生まれで、アーナンダの兄弟であり、お釈迦様のいところにあたります。頭のよい人物で、教団の中でも上層部にいましたが、次第にお釈迦様をねたみ、自分が教団の後を継ぎたいと考えようになりました。

## 次々と放たれる策略

そこで、まず提婆達多が画策したのは、七十歳を越えたお釈迦様の引退でした。

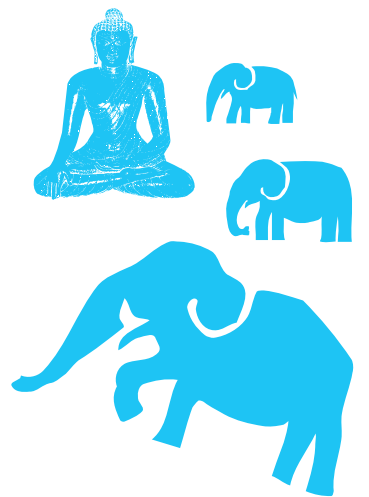
「世尊よ、あなたはもうそろそろ引退を考えてもいいお年です。教団のことは私に任せて、心やすらかな日々をお過ごしください」

しかし、提婆達多の心の中を見通していたお釈迦様は、笑みを浮かべながら静かに首を横に振っただけでした。提婆達多が次にたくらんだのは、高額な報酬で集めた殺人鬼たちにお釈迦様を襲わせることでした。しかし、それもことごとく失敗に終わります。襲

われたお釈迦様が右手を軽く上げてかざすだけで、殺人鬼たちは襲う気力を奪われて座り込んでしまいます。なかには、お釈迦様の説法を聞きながら、涙を流してそれまでの人生を悔いる者、持っていた刀で自分の髪を落として出家してしまう者まで現れました。

## ついに提婆達多の毒牙が

しかたなく提婆達多は、自分の手で



お釈迦様を殺すことを決意しました。まず、大きな石をお釈迦様の上に落としましたが、不思議なことに石はお釈迦様を避けてしまいます。

次に、狂った象の集団にお釈迦様を襲わせます。あわやお釈迦様の運命もここまでかと思われた瞬間、それまで猛り狂って手のつけられなかった象たちが、お釈迦様の前にくると恍惚の表情を浮かべてひれ伏してしまつたのです。

怒りにわれを忘れた提婆達多は、最後の手段と、自分の爪に猛毒を塗り、お釈迦様の首筋に突き立てようとします。まさに爪先が首に届くその直前、猛毒は提婆達多の全身に回り、胸をかきむしり、のたうち回りながら死んでしまいました。

今回は地獄に落ちた提婆達多のお話です。

□ 弁天さま祈禱会

一月十五日(日)  
午前十時~十一時  
皆様の厄を払い福を招く法要を行います。甘酒の振る舞いもごさいます。誘いあわせてお参りください。

□ 彼岸会写経会

三月十八日(土)~二十三日(木)  
午前十時~午後四時(受付随時)  
写経は、亡くなられた方のご冥福を祈り、功德と浄福を授かります。



□ 彼岸会施食会

三月二十四日(金)  
午後時~三時(受付は一時半まで)  
亡くなられた方のご冥福を祈り、先祖供養の法要を営みます。

※ 一月の早朝坐禅会はお休みです

毎月第一土曜日に行っております早朝坐禅会を、一月はお休みさせていただきます。

# 在家得度のおすすめ



宮崎禅師様より  
血脈をいただく



北浜耕司

大本山總持寺で前住職と  
現住職とのご縁をいただき、  
平成十五年五月より臨南寺  
の寺務長として働かせてい  
ただいております北浜耕司  
と申します。

サラリーマンの経験しか  
ない私には、お寺にきた当  
初は始めて経験することや  
初めて聞く言葉が多くて戸  
惑うことも多く、最近よう  
やく慣れてきた次第です。

お寺で働くようになり、  
僧侶の方々の修行時代のお  
話を聞くたびに、かなり厳  
しい修行をされた話に感動  
しております。在家の者  
でも少しでも修行生活を経

験できないかと住職に相談  
しましたところ、兩大本山  
で在家得度が受けられると  
教えていただきました。

私は常々、永平寺の宮崎  
奕保禅師様が百五歳になら  
れる今も午前三時から毎日  
坐禅され、写経も毎日され  
る話を聞いておりました。  
ぜひとも宮崎禅師様から得  
度を受けたくて、永平寺に  
参ることになりました。

一泊二日の短い時間でし  
たが、すばらしい経験をす  
ることができました。皆様  
も機会があれば、ぜひ経験  
されることをおすすめします。

## 得度式次第

### 1日目

13時～14時	受付
14時～	諸説明
14時半～16時	諸堂拝観 坐禅
16時半～17時半	法話
17時半～19時	おげせん 薬石上膳
19時半	入浴
21時	開枕

### 2日目

4時	しんがい 振鈴
4時半	止静
5時半	朝課 しょうじき 小食
7時	法話
8時半～9時半	法話
9時45分	得度式 記念撮影
11時半	解散

## マトリ合同法要しめやかに

十一月十三日(日)午後二時から、がつしょう園マ  
トリの合同法要が営まれました。



本堂で、大分の真見寺住職の天雨清成老師の  
法話を聞いた後、マトリ  
に入り、読経が続くな  
かで焼香と祈りをささ  
げました。回を重ねる  
たびに参列者も増え、二  
百二十人を超えました。  
がつしょう園マトリは、  
お墓の継承者がいなく  
なっても、永代にわたって供養してもらえる永代供  
養墓です。清浄な雰囲気にも包まれたマトリは、入  
会希望の方が絶えません。

## 極楽鳥花をいただきました

住職の奥さんがお花好きということを耳に  
された檀家の藤田秋雄様から、極楽鳥花をいた  
だきました。今はまだ二つ  
しか花が咲いていませんが、  
つぼみをたくさんつけてい  
ます。寺務所の南側に植  
えておりますので、どう  
ぞお楽しみください。



## お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

第一土曜日 午前六時三十分～  
一月・七・八月は中止します。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時  
写経料／二〇〇円

子ども空手教室

毎週木曜日 午後七時～九時  
一か月／六〇〇円



※いずれも事前のお申込みが必要です。

「ほ～っと」16号

平成17年12月

編集・発行：稜伽林「ほ～っと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com

### 編集後記

自分さえよければそれでいい、そんな風潮が社会を覆っています。いつからこんなことになったのでしょうか。せめて身の回りから、思いやりと感謝の心を広げていきましょう。

今号の内容はいかがでしたか?ご感想をお寄せください。FAXでも結構です。